

一般社団法人島田青年会議所
2024年度 基本資料

基本理念

我々は地域の未来を担っていることを自覚し
まちづくりを推進するとともに
地域に誇れる人財と組織を創る

基本方針

1. 地域の魅力を活かしたまちづくりの研究と実践
2. 和の心を育む青少年育成の実践
3. JG運動の効果的な発信と拡大の実践
4. 地域のパートナーシップの中心となる組織構築
5. 社会に誇れる人財開発の実践

スローガン

Be ambitious!

～明るい未来を描き、今できることに挑戦しよう～

理事長所信

一般社団法人島田青年会議所

理事長 岩本 智

はじめに

日本が高度経済成長期を迎えた昭和の時代、日本は世界の先進国の仲間入りを果たし、世界をリードするトップランナーとして走り続けてきました。高度経済成長期には交通機関、家電製品、学問にいたるまで様々な分野で新しい技術が生み出されました。日本発の技術で開発された製品は世界でもその技術が称賛され、かつて「Made In Japan」は世界一のブランドといっても過言ではないものとなりました。なぜそれほどまでに爆発的な成長を遂げることができたのでしょうか。私は、技術革新をもたらした先人たちには明確な「夢」があったからではないかと考えます。日本の未来を明るくするために、「もっと快適に」「もっと便利に」と常に高みを目指し、「夢」を叶えるための弛まぬ努力と強い意志、情熱をもって生きたのだと思います。まさにJC宣言にもある、英知と勇氣と情熱を持って明るい豊かな社会を築くという志を体現されています。そしてその先人たちのおかげで私たちは当たり前のように何不自由のない生活を手に入れています。しかしその後のバブル崩壊から日本の経済は停滞し、現在では日本の経済は30年成長していないと言われていています。加えて人口減少による労働人口の減少と生産性の低下、先の新型コロナウイルスの感染拡大により、これらの課題が解りやすく浮き彫りになったと感じています。

何不自由のない暮らしは、自ら課題を解決する姿勢を奪ってしまっていないでしょうか。「誰かがやってくれる」「自分の仕事ではない」と、社会が抱える課題から目を背け、他人ごとのように生きてしまっていないでしょうか。私はこの国に生きる全ての若者には明るい未来を創る責任があると考えます。何故なら、私たちは家族、友人、会社の社員と共にこの日本という国で生きています。明るい未来を創るということは、自身の周りの人間と、これからこの国で生まれてくる全ての子どもたちの未来を明るくすることなのです。かつての「夢」をもち、日本を世界でも称賛される国へと導いた先人たちのように、一人ひとりが未来を担っていることを自覚し、使命感と情熱に心を燃やし、青年会議所運動に強い意志をもって邁進して参ります。

地域の魅力を活かしたまちづくりの研究と推進

内閣府の調査によると日本の高齢化率は29%にのぼり、世界で最も高齢化率の高い超高齢社会を形成しています。高齢社会では労働人口の減少による生産性の低下、社会保障制度が破綻する危険性などの深刻な問題が発生します。島田市、川根本町においても同じ課題を抱えています。政府が掲げるデジタル田園都市国家構想では、地方が抱える社会課題の解決を成長の原動力とし、地方から全国へのボトムアップにつなげるとあります。つまり、地方創生が我が国の未来を明るくする一つのカギになるのです。

私たちが住み暮らすこのまちには、大井川が育んだ歴史や文化、南アルプスを望む雄大な自然、さらには日本の大動脈である高速道路と空の玄関となる静岡空港、近隣には物流を支える御前崎の港。陸海空のインフラを有した全国的に見ても稀有な地域であります。この地域の財産とも言える魅力と特徴はデジタル田園都市国家構想のモデルケースにさえなれる可能性があると考えます。地域が持っている魅力を活かしていく、さらには常識に捉われない新たな魅力の開発を研究し、島田市、川根本町のまちづくりを推進していきます。また、2024年度には静岡ブロック大会が12年ぶりに島田の地で開催されます。ブロック大会ではそのスケールメリットを活かし、多くの人を巻き込むことが可能です。私はこの機会を大きなチャンスであると認識しています。この機会に島田市、川根本町の魅力を静岡全域に発信し、島田市、川根本町の発展に寄与できるよう全力を尽くして参ります。

和の心を育む青少年育成の実践

近年、身勝手な理由で他人の命までも奪ってしまう痛ましい事件を目にすることが増えたと感じています。古来より日本人には他者を尊重し、親や年上を敬う和の心を宿してきました。和の心はおもてなしや礼儀を重んじる様々な文化を生み出し、我々日本人に受け継がれ、今では世界からも称賛されるものとなっています。この日本人の誇りとも言える和の心を絶やすことなく未来へつなげていくことが我々の使命であります。

和の心の根幹にあるものは幼少期に得る経験が大きく影響するのではないのでしょうか。暗くなるまで友と過ごした時間、直接肌に触れる小さな命、山や川が教えてくれる自然の恩恵と厳しさ、親から受ける無償の愛。これらの経験が命を慈しみ、他者への思いやりをもてる人間へと成長させるのです。しかし、昨今子どもたちには多くの人と直接関わりあう機会が少なくなってしまったのではないかと感じます。人との直接の関わり合いは、喜怒哀楽の感情をダイレクトに伝えます。より多くの人と関わりコミュニケーションをとることが他者の感情や考え方を肯定的に受け入れ、和の心の醸成につながります。子どもたちにはより多くの人と関わり、多くの経験をしてほしい。私たち大人が、未来を担う子どもたちに責任をもってその機会を提供していきます。そして幼少期に故郷で過ごした経験は心の拠り所となり、社会の大きな壁に当たり悩んでしまった時にその壁を乗り越えることのできる大きな力になると確信しています。子どもたちに対し、一生忘れることのないような記憶に残る青少年育成事業を実践します。

JC運動の効果的な発信と拡大の実践

私は「JC運動」とは、地域住民を巻き込み、想いを伝播していくことだと解釈しています。近年SNSの普及により、誰でも簡単に情報発信ができるようになりました。小学生でも自身のアカウントをもち、自ら情報発信をする時代です。しかし、重要なのは誰に対して何を伝えたいのかです。自己満足な一方通行の情報発信は本当の意味での発信とは言えません。私たちの行う運動の一つひとつには地域住民やメンバーに伝えたい想いが必ずあります。単に地域への奉仕や自己研鑽を重ねていくだけではなく、そこにある想いを伝えていくことが何よりも重要であると考えます。一つひとつの運動に想いを込め反映することはもちろん、想いを効果的に伝え、地域住民の琴線に触れることで、能動的に行動を起こす市民、すなわちアクティブシチズンを生み出すことができます。今までやってきたことをただ続けるだけではなく、効果的な情報発信を模索し、「伝える」のではなく、「伝わる」情報発信をしていきます。また、私たちの想いに共感し、運動を共に行う同志を発掘していきます。単に会員数を増やすことが目的ではなく、志高い青年の集団を目指します。そうして私たちの運動を地域の隅々まで波及させることが地域の明るい未来をつくるのだと確信しています。

地域のパートナーシップの中心となる組織構築

島田青年会議所は島田市社会福祉協議会、川根本町社会福祉協議会との三者間で災害時における相互応援の協定を結んでおります。2022年に発生した台風15号による災害では互いに協力し合い、災害復旧に力を発揮することができました。私自身、パートナーシップの重要性を痛感した機会となりました。私たちは先の経験を活かし防災の面において更なる連携の強化をしていく必要があるのではないのでしょうか。近年、台風だけではなく、突発的な豪雨による水害が頻繁におきています。地域の防災へのレジリエンスを高め、誰もが安心、安全に暮らせるまちを目指し、各団体の枠に捉われず、ステークホルダーとなりえる者同士のパートナーシップを結ぶ機会を作っていきます。また、地域の発展を力強く推進させていくためには、やはり多くの力が必要になります。防災面に留まらず、私たちが中心となり、ともにまちづくりを行っていけるパートナーシップの輪を拡げていきます。

社会に誇れる人財開発の実践

近年デジタル技術の発達により人々の生活が急激に変化しています。中でも少し前までは未来のかたちとして描かれていたAIを活用したサービスがいよいよ現実のものとして活用され始めました。行政や教育現場でも生成型AIを試験的に導入されています。一方、AI技術を活用するにあたっての危険性もあらゆる場面で議論がされています。私たちは社会が変化していく中で、変化の波にのまれていくのではなく、変化を正しく理解し、意思をもって新しい技術を利用していかなければなりません。島田青年会議所では、まちづくりに留まらず、社業、普段の生活、現代を生き抜いていく力を身につけるべく、学び、実践し、これからの社会を牽引していく人財を生み出していける組織を目指します。

結びに

私は自分を成長させたいという想いで青年会議所への入会を決意しました。入会以来、多くの成長の機会を提供していただき、今年度理事長職をお預かりさせていただくこととなりました。青年会議所という団体は、社会の最先端を学び、魅力ある人財を創る価値のある団体であってほしいと願っています。私は理事長として、現役会員の皆さまにまちの明るい未来を我々の手で創るという志の下、価値ある機会を提供していきます。会員の皆さまにはただやらされるのではなく、その機会を自ら取りにいく気概と大志を抱いてJC運動に邁進してほしいと思います。私たち一人ひとりが成長し、地域で活躍していくことが「明るい豊かな社会」の実現に確実に近づいていくものだと信じています。できない理由をさがすのではなく、まずは「できる」と決断し、共に歩んでいきましょう。

一年間よろしくお願いいたします。

基本運営方針

すべての業務は一般社団法人島田青年会議所の
定款並びに各種諸規定に沿って行う

職務分掌①

専務理事

1. 理事長・副理事長の補佐
2. 会務全般の掌握及び指導
3. 担当委員会の掌握及び指導
4. 会計財務管理業務
5. 理事会・正副ミーティングの統括及び推進
6. 創立60周年準備業務

副理事長

1. 担当委員会の掌握及び指導
2. 会員親睦会の企画・運営（山内副理事長）
3. LOM内褒賞の企画・運営
4. バイパスクリン作戦の統括（各委員会で持ち回り）

職務分掌②

拡大委員会及び委員長

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 新入会員の拡大及び統括 | 2. 新入会員準備業務 |
| 3. 新入会員のフォローアップ | 4. 1月例会の企画・運営 |
| 5. 6月経営力開発例会の企画・運営 | 6. 11月スポーツ例会の企画・運営 |
| 7. 卒業式の企画・運営 | |

新年会の企画・運営（会員クラブ）

青少年育成委員会及び委員長

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 新入会員の拡大 | 2. 4月資質向上例会の企画・運営 |
| 3. 8月青少年育成例会の企画・運営 | |

忘年会の企画・運営（会員クラブ）

卒業アルバム（会員クラブ）

まちづくり委員会及び委員長

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 新入会員の拡大 | 2. 5月人間力開発例会の企画・運営 |
| 3. 9月まちづくり例会の企画・運営 | 4. 防災協定に基づく活動の推進 |
| 5. 投票率向上事業の企画・運営 | 6. しまだ大井川マラソンへの協力 |

総務・事務局及び事務局長

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| 1. 新入会員の拡大 | 2. 理事会・正副 MTG の設営 |
| 3. 各会議の議事録作成業務 | 4. 総会資料の作成業務 |
| 5. 渉外業務 | 6. 中部 5JC 合同例会の企画・運営 |
| 7. 総会の企画・運営（臨時含む） | 8. 10月自由テーマ例会の企画・運営 |
| 9. 選挙管理委員会の運営 | 10. 当該年度備品準備業務 |
| 11. 出向手続き及び関連業務 | |
| 12. その他、庶務規定第2章「事務局」に則り業務 | |

委員会別分担表

月	事業名	拡大委員会	青少年育成	まちづくり	総務・事務局
1	1月例会の企画・運営 新年会の企画・運営（会員クラブ）	○ ○			ホ
2	総会の企画・運営（2月例会） バイパスクリーン作戦	ホ ☆			○
3	3月中部5JC合同例会の企画・運営				○
4	4月資質向上例会の企画・運営 バイパスクリーン作戦		○ ☆	ホ	
5	5月人間力開発例会の企画・運営	ホ		○	
6	6月経営力開発例会の企画・運営 バイパスクリーン作戦	○		☆	ホ
7	総会の企画・運営（7月例会） 会員親睦会の企画・運営（会員クラブ）		ホ		○
8	8月青少年育成例会の企画・運営 バイパスクリーン作戦		○	ホ	☆
9	9月例会の企画・運営			○	ホ
10	10月自由テーマ例会の企画・運営 しまだ大井川マラソンへの協力 バイパスクリーン作戦			ホ ○ ☆	○
11	11月スポーツ例会の企画・運営	○			ホ
12	総会の企画・運営（12月例会） 卒業式の企画・運営 忘年会の企画・運営（会員クラブ） バイパスクリーン作戦	○	ホ ○		○ ☆

○：例会（事業）担当　ホ：例会ホスト担当　☆：バイパスクリーン作戦の設営